

富士興産

# バイオ燃料「姫路製造所」竣工

## 製造・出荷能力最大1万2000 $kl$ 規模

富士ユナイテッドホールディングスグループの富士興産は、全国4カ所目となるバイオ燃料製造拠点「姫路製造所」（兵庫県姫路市）を開所した。年間製造・出荷能力は、軽油にバイオ燃料（脂肪酸メチルエステル（FAME）、B100）を5%混和した「B5軽油」換算で同社最大の1万2000 $kl$ 規模を誇る。22日に試運転を開始し、来年1月以降に本格稼働に移行する。川崎靖弘社長は21日に同市で開催した竣工式典・記念パーティーで、潤滑油メーカーとしての来歴に触れ「久々に『製造』の立ち位置に本格復帰する。本製造所開所は単に新たな工場が稼働するという以上の意味をもつ」と語った。

## 川崎社長、メーカー本格復帰を宣言

同製造所には総容量「基、B100タンク3」計8基を設置。将来的各32 $kl$ の軽油タンク2「基、製品タンク3基」には一部タンクをA重

油に転用し、バイオ重油の製造も計画する。混和製造設備はバイオ燃料の混和比率を自由に設定できる自社開発の濃度可変型ブレンダー「富嶽」を導入。受入・出荷設備は高さ8 $m$ の大型キャノピーを備え、大小のタンクローリーやISOタンクコンテナなどあらゆる荷姿での出入荷ができる。またAI（人工知能）による監視システムも採用した。

を覚悟のうえで本格時代に先駆けて本製造所を立ち上げた」と説明。「製造プロセスの

姫路製造所竣工式。  
左から3人目が川崎靖弘社長

安全性や製造商品の品質、出荷体制の柔軟性

と効率性を徹底的に維持して、日本最高水準の運用で稼働させる」と述べた。

恩田靖執行役員販売本部次世代エネルギー

部長は、竣工記念パーティーの中締めあいさつで「姫路を起点とすることで、関西から中国・四国までの広いエリアの需要をカバー

する重要な拠点となり得る」と同製造所の意義を語った。

またバイオ燃料の普及拡大には、①原料の安定確保②出入荷・給油施設、二次配送・ラストワンマイル配送の整備③FAMEの燃料規制・規格対応の改善などが必要と指摘。各分野で関係者と連携することが課題解決の道筋との考えを示した。

同製造所での神事にはグループや取引先の関係者など約40人、「ホテル日航姫路」で開催した竣工記念パーティーには約100人が出席した。



当面はB5、B30、B100出荷のほか、任意の混和比率での受注生産にも対応する。

川崎氏は「バイオ燃料は現時点で主流の燃料ではないが、リスク